

# 身体障害を越えた スポーツ交流の実現に向けて

—「障害者スポーツ」という概念をなくすイベントの実施—



明治大学 高峰修ゼミナール Aグループ

和泉良紀 白石遥也 中島一  
中村智哉 馬場楼真 百瀬侑花

# 緒言 研究背景

- 障害者スポーツに関して健常者の理解が進んでいない問題
  - 「障害者スポーツは健常者のスポーツとは別物」という考えが根底にあるのではないか
- 健常者と障害者のスポーツ通じた交流の現状把握
  - そこにある問題を解決することで健常者と障害者の意識の壁を取り払うことができるのではないか





# 緒言 研究方法

## ■ 文献調査

現在の障害者スポーツの状況、自治体の取り組み

## ■ 障害者スポーツセンターでのフィールドワーク

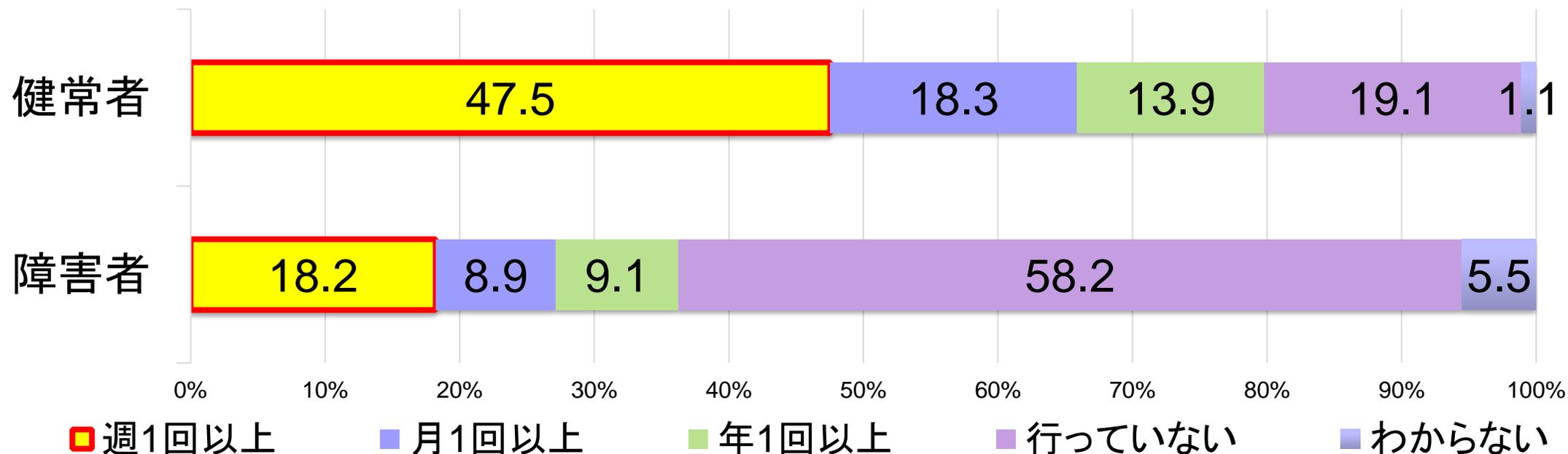
実際にスポーツをしている障害者、施設の職員への聞き取り調査



# 障害者によるスポーツ実施の状況

- 文部科学省(2015)過去1年間に週1回以上スポーツレクリエーションを行った人

□ 成人計6568人(障害者4671人、健常者1897人)

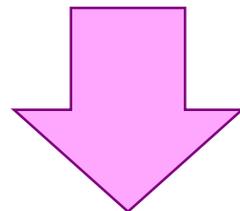


# 障害者によるスポーツ実施の状況

- 「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」と答えた障害者

**51.5%**

笹川スポーツ財団(2017)



約半数はスポーツ・レクリエーションに関心なし!!



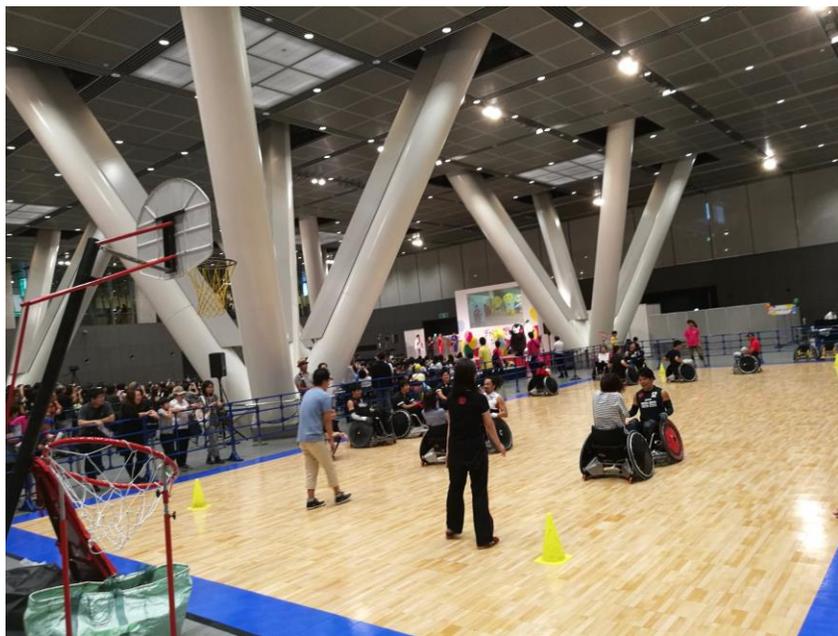
# 東京で行われている 定期的な障害者スポーツイベント

- 障害者スポーツセンター
  - 定期的な健常者と障害者の交流イベント(地域交流事業)
  - 障害者がスポーツを行う上での支援活動
  - スポーツ教室
- 特別支援学校、各地の体育館等
  - 教室や体験会、講習会



# 東京で行われている 不定期な障害者スポーツイベント

- 東京都と東京都障害者スポーツ協会
  - 参加体験型スポーツイベント「チャレスポ！ TOKYO」(2013～)



# 全国で行われている 定期的な障害者スポーツイベント

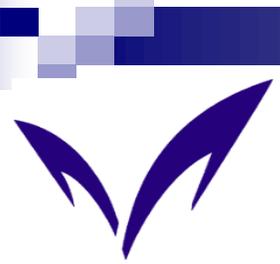
- 全国139カ所の障害者専用・優先スポーツ施設
  - スポーツを通じた交流イベント
  - スポーツ支援事業



# 全国で行われている 不定期の障害者スポーツイベント

- 障害者スポーツ大会
- 障害のある人とない人が一緒に行うスポーツ大会
- 障害者スポーツ体験イベントや講演会、講習会





## 現在の障害者スポーツイベントから

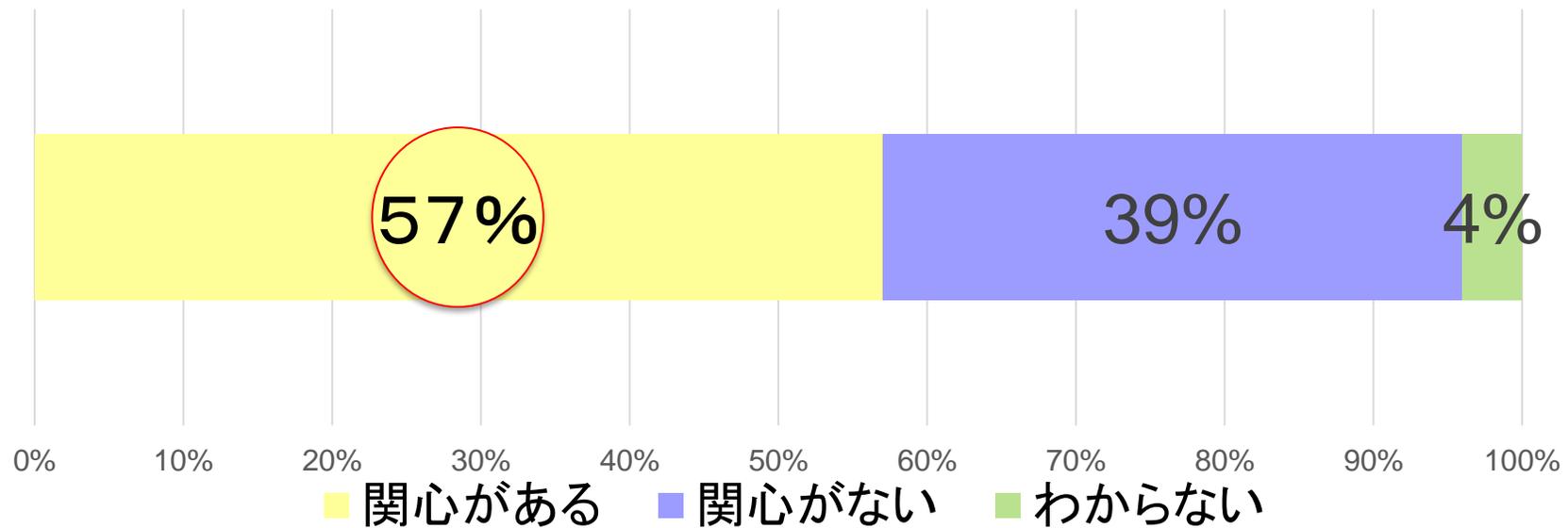
- オリンピック・パラリンピック開催により意識が高まっている東京のみならず、全国でも障害者スポーツイベントが様々な形で開催されている
- しかし基本的に参加者が会場に出向く形で、一般の人の目にはあまり触れる機会がない

# 健常者の障害者スポーツの認知状況

## ■ 東京都(2018)

「障害者スポーツへの関心があるか」

対象：東京都全域に住む18歳以上の男女、標本数：3000標本



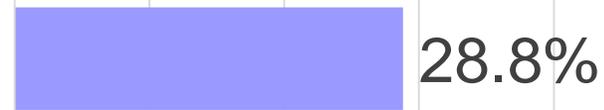
# 健常者の障害者スポーツの認知状況

## ■ 「障害者スポーツに関することでしてみたいこと」東京都(2018)

テレビで障害者スポーツの試合を  
観戦する



競技場や体育館などで障害者ス  
ポーツの試合を観戦する



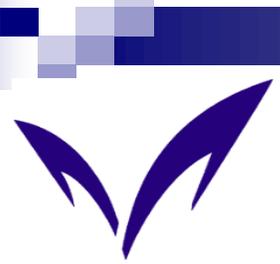
障害者スポーツの競技を体験す  
る



障害者スポーツを支援するボラン  
ティアに参加する



実際に触れたいと思う人は  
少ない

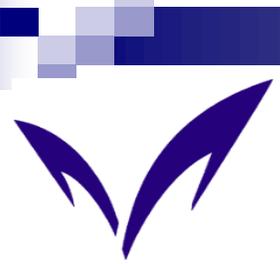


# 健常者の障害者スポーツの認知状況

## ■ オリンピックとパラリンピックのイメージ頻出語 (高峰,2016)

順位	オリンピック・イメージ			パラリンピック・イメージ		
	抽出語	出現回数	%	抽出語	出現回数	%
1	スポーツ	441	11.9	障害	450	14.3
2	世界	406	10.9	スポーツ	241	7.7
3	祭典	312	8.4	努力	224	7.1
4	メダル	166	4.5	車いす	163	5.2
5	平和	144	4.3	オリンピック	138	4.4

障害者スポーツへの印象は健常者スポーツと異なる



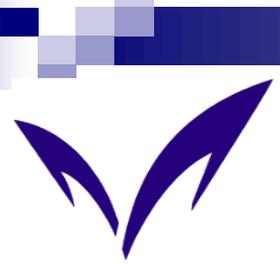
# 健常者の障害者スポーツの認知状況

- 障害者スポーツへの関心を持つ人は一定数いるものの、実際に体験しようと思う人は少ない
  - 健常者が抱いている

## 障害者への意識の壁

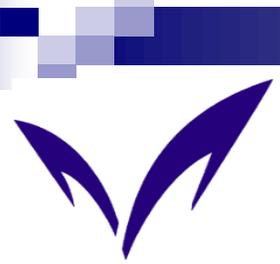
- 障害者が努力してスポーツをすることは「特別」？
  - 健常者スポーツと障害者スポーツが

**違うものとして捉えられている現実**



# 障害者と社会

- スポーツの面からみると障害者は健常者と同様の視点で見られているとはいえない状況
- 東京オリンピックを控え、障害者と健常者が同じ視点で生きる社会を実現しようとする動きが！！



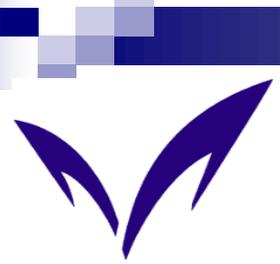
# 共生社会ホストタウン

- 内閣官房の東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局が促進
  - 「共生社会の実現に向けた取組の推進」
  - 「東京大会の事後交流も含めた、幅広い形でのパラリンピアンとの交流」
- 全国で6自治体(2017年12月現在)
  - 三沢市(青森) 浜松市(静岡) 明石市(兵庫)
  - 宇部市(山口) 高松市(香川) 世田谷区(東京)



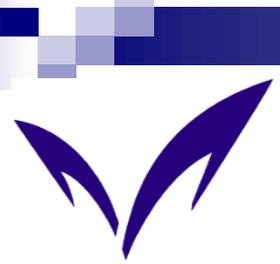
# 世田谷区の例

- ユニバーサルデザインのまちづくり
  - 東京五輪馬術会場の馬事公苑周辺のユニバーサルデザイン化の促進
- 心のバリアフリー
  - パラリンピアンと区民との交流、児童・生徒への障害理解教室、バリアフリー化推進
- 障害者スポーツの推進等（世田谷区独自の取り組み）
  - ユニバーサルデザインによる区立大蔵運動場陸上競技場の整備、障害者のスポーツ環境の向上



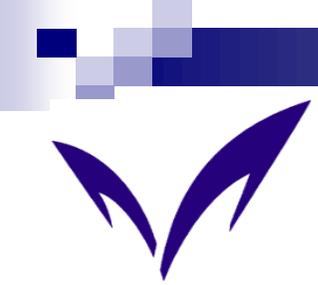
# 共生社会ホストタウン

- 「ユニバーサルデザインのまちづくり」は一度作れば残るものの、「心のバリアフリー」は**継続して取り組んでいくこと**が必要
- スポーツの面から「心のバリアフリー」を継続していくことができるのではないだろうか？



# フィールドワークの目的

- 実際にどのような形で交流イベントが行われているのか
- 実際にスポーツを行っている障害者やそれに携わる方々の声を聞くことで、データだけでは得られない障害者スポーツの現状を知る
- 障害者の方々がスポーツを行っている現場を見学することで、障害者の考え方を理解する



# フィールドワークの概要

- 場所 東京都多摩障害者スポーツセンター
- 日時 2018年8月9日 13時～15時
- 内容 施設見学、利用者と職員からの聞き取り

# 現在行われているスポーツ交流イベント

## ■ 日曜広場

- 定期的(2か月に1回程度)に開催される地域交流イベント
- うちわ作り、ボッチャ、ドッジビー、ヨーヨー釣り、玉入れ etc.
- 縁日のような形で子供も来場している

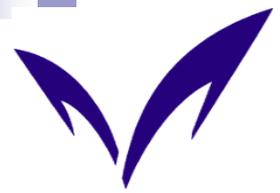


# 現在行われているスポーツ交流イベント

## ■ TAMAスポーツまつり

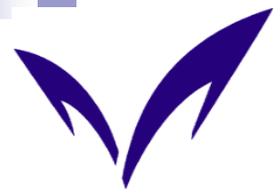
- 調布市民スポーツまつり(10/8)と同時開催
- サウンドテーブルテニス、車いすテニス、バドミントン、ゴールボールの体験会





# スポーツを行っている障害者の声

- 「健常者のルールでもスポーツができるように工夫している。これは、健常者が強くなるために努力することと変わらない」  
(男性・下半身まひ)
- 「障害者によって症状だけでなく気持ちも異なり、運動することに前向きでない人もいる」  
(女性・車いす使用)



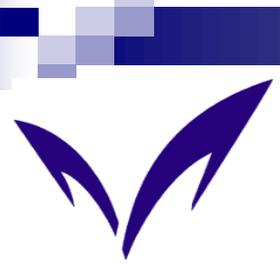
# 障害者スポーツセンター職員の声

- 「障害者向けに開催しているイベントに健常者も参加できるようにしたい」
  - 「2020年の東京五輪に向けて補助金などが充実しているが、2020年以後が不安であり、現在から取り組む必要性がある」
- (30代・女性)

# フィールドワークのまとめ

- スポーツ交流イベントは様々な人を呼び込めるように行われている
- 障害者は健常者と同じ気持ちを持ちスポーツと向かっている
- 様々なイベントが現在行われているが、パラリンピック開催で高まった熱を冷まさないためには継続的な活動が必要



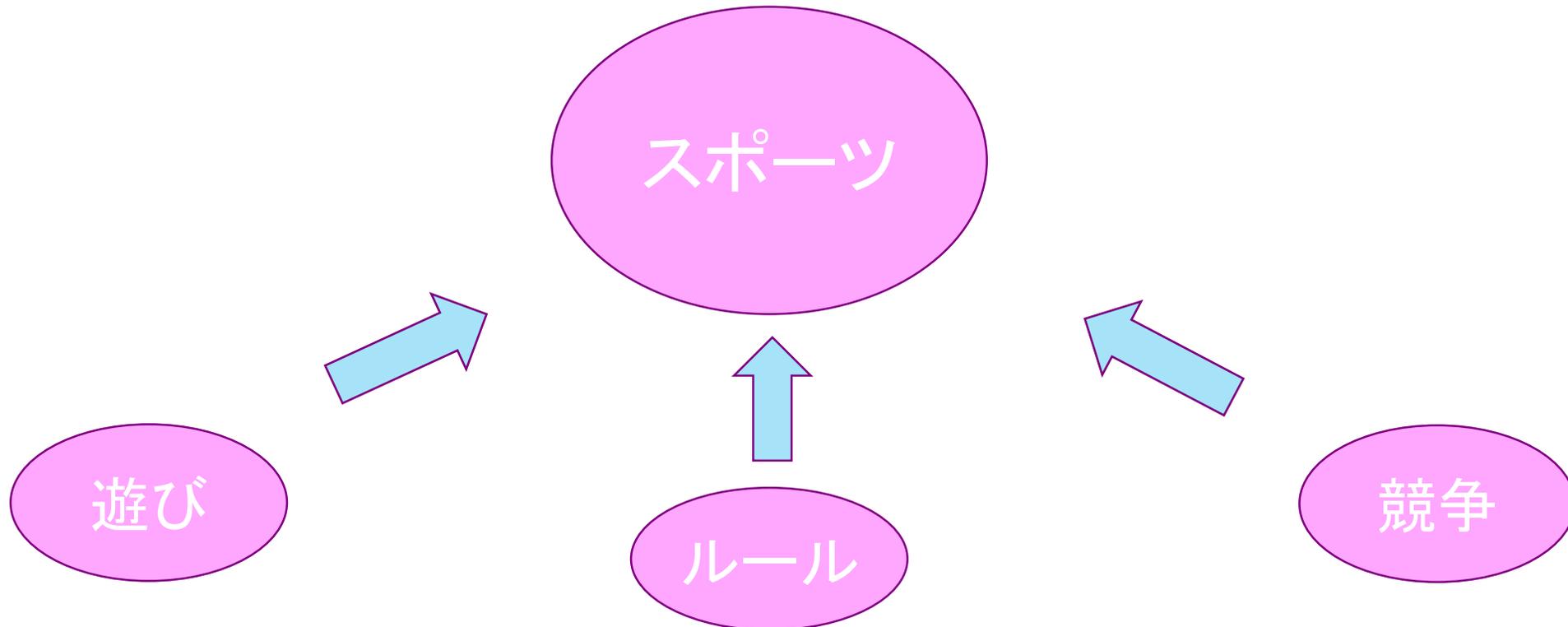


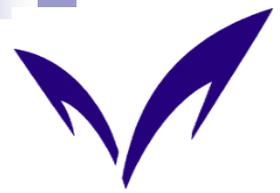
## 調査でわかったこと

- 健全者と障害者がスポーツ交流できるイベントはある
  - 一方で障害者スポーツ自体に興味を持っている人が健全者、障害者ともに少ないため来場者はまだまだ
- 健全者と障害者の意識に大きな隔たりがある
- パラリンピック開催で高まった熱を冷まさないためには継続的な活動が必要

# 現状を変える手がかり(発想の転換) ～スポーツについての認識～

- スポーツはすべて共通して遊び、競争の属性を含み、その中で一定の規則が定められているもの。これら3つによりスポーツが構成される





# 現状を変える手がかり(発想の転換) ～スポーツについての認識～

- それぞれのスポーツは自由な動きをルールで制限することで作られているといえる(サッカーでは手を縛り、行動を制限している)

それならば...

障害者スポーツも健常者スポーツもルールで縛りをつけた、同じくくりの「スポーツ」という枠組みでとらえられるのではないか

(サッカーのルールに視力を縛るルールを加える⇒ブラインドサッカー)



# 現状を変える手がかり(発想の転換) ～イコールスポーツ～

- 障害者も健常者も障壁なく楽しめるスポーツを
- こういったスポーツを、平等に楽しめるスポーツ

⇒「イコールスポーツ」と定義！



# イコールスポーツとは

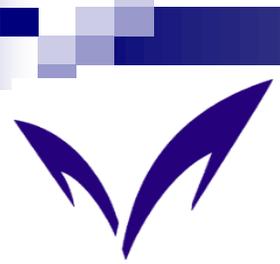


- ・使う箇所に制限（足、目など）
- ・車いす等に乗る
- ・難易度を合わせる

ルール化

「身体障害」ではなく  
「ルール」として認識

**同じルールで**競技を行うことで「意識の壁」をなくす！  
例) 車いす競技、ブラインドサッカー、ボッチャなど



つまり...

誰もが

イコールコンディションでできるスポーツ

=イコールスポーツ

# イコールスポーツの例

- ボッチャ
  - 難易度を合わせたスポーツ
- ブラインドサッカー
  - 目を「見えなくして」プレイするスポーツ



# イコールスポーツの例

## ■ 車いすソフトボール

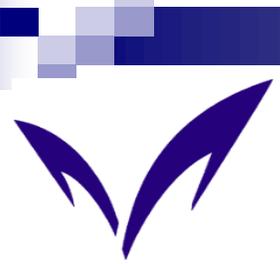
- 健常者も車いすに「乗って」プレイするスポーツ
- 持ち点制度によって健常者と障害者がともにプレイ





## 提言

- イコールスポーツの普及のためには、幅広い人がイコールスポーツに触れる必要がある
    - しかし…
      - 既存の障害者スポーツセンターや体育館でのイベントではもともと障害者スポーツに興味がある人の参加がメインになってしまう
- 
- 「イコフェス(イコールスポーツのフェスティバル)」と名付けたイベントを、人の目に触れる駅前や商店街で開催！
    - 障害者スポーツに関心のない人も目を向けるように！！！！

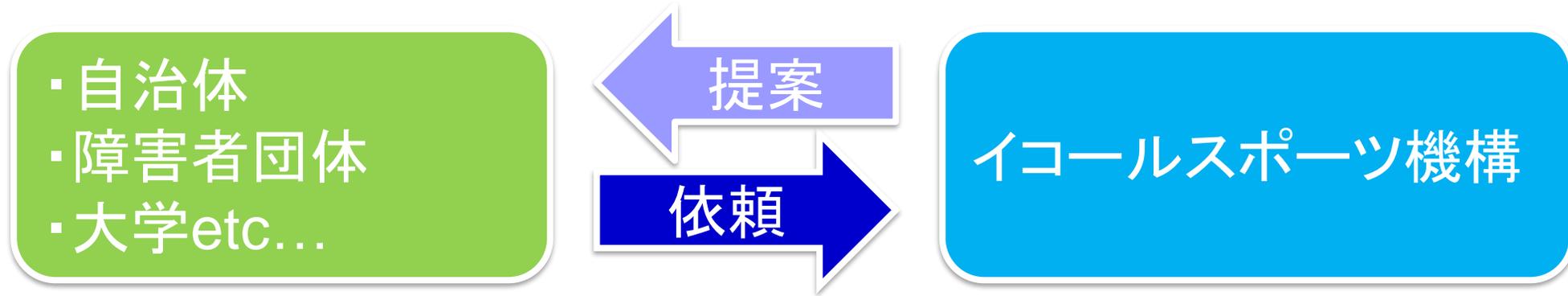


## 「イコフェス」の概要

- コンセプト…障害の有無を超えたスポーツ交流
- 場所…駅周辺の広場や商店街
- 期間…サラリーマン向け＝平日5日間  
ファミリー向け＝休日1～2日間

駅付近や商店街で開催することにより、昼休憩のサラリーマンや主婦、子ども、高齢者など多くのひとが体験できるように

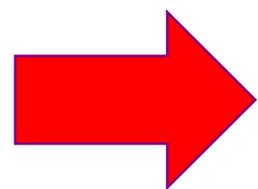
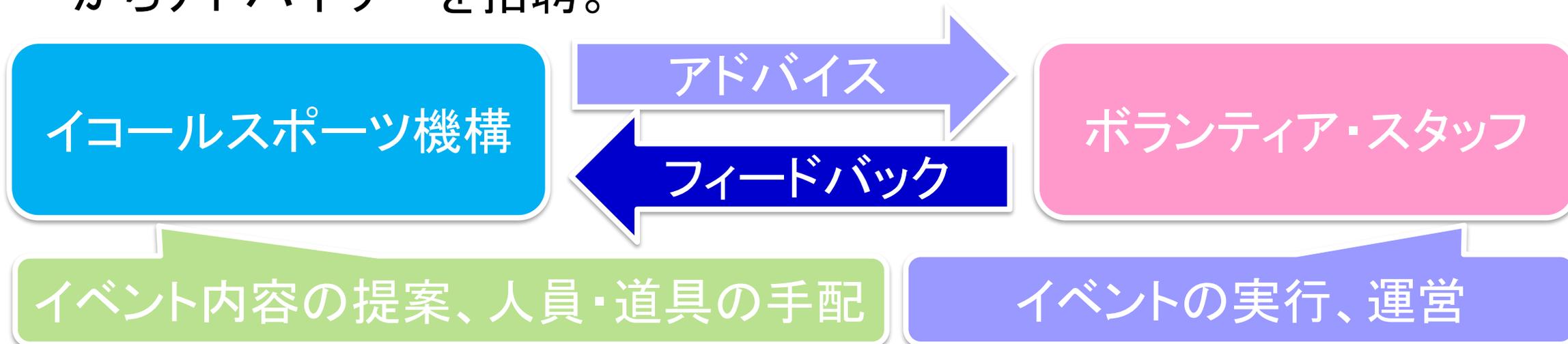
# 「イコフェス」の概要



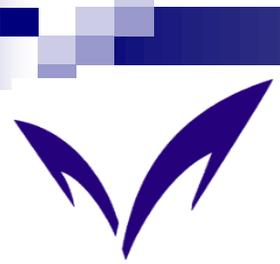
- 共生社会ホストタウンに登録されている都市や登録を目指している都市で開催
  - 「心のバリアフリー」の実現につなげることができる！

# イコールスポーツ機構

- 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、障害者スポーツセンターからアドバイザーを招聘。



イコールスポーツ機構の存在により経験の蓄積、**継続的なイベントの実施**が可能に



## 「イコフェス」への障害者の関わり

- 普段スポーツを楽しんでいる障害者の方は「教える」側として「イコールスポーツ」の楽しさを伝える
- 普段スポーツを楽しんでいない障害者の方も健常者と同じ「知る」側として「イコールスポーツ」の楽しさを知る



- 障害者と健常者、また障害者同士の交流も図ることができる
- 障害者のスポーツ実施のきっかけになる

# 会場例(狭い場合)

## 【種目】

- ボッチャの体験
- 目隠しPK
- 車椅子試乗
- ストラックアウト







# イベントイメージ

## ファミリー向け

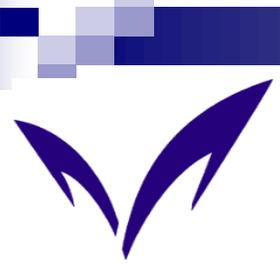
- ・休日
- ・お祭りのような雰囲気
- ・障害児と健常者の子の交流も



## 働く人向け

- ・平日
- ・スーツでも参加できるように
- ・昼休みなど短時間





# 実施内容

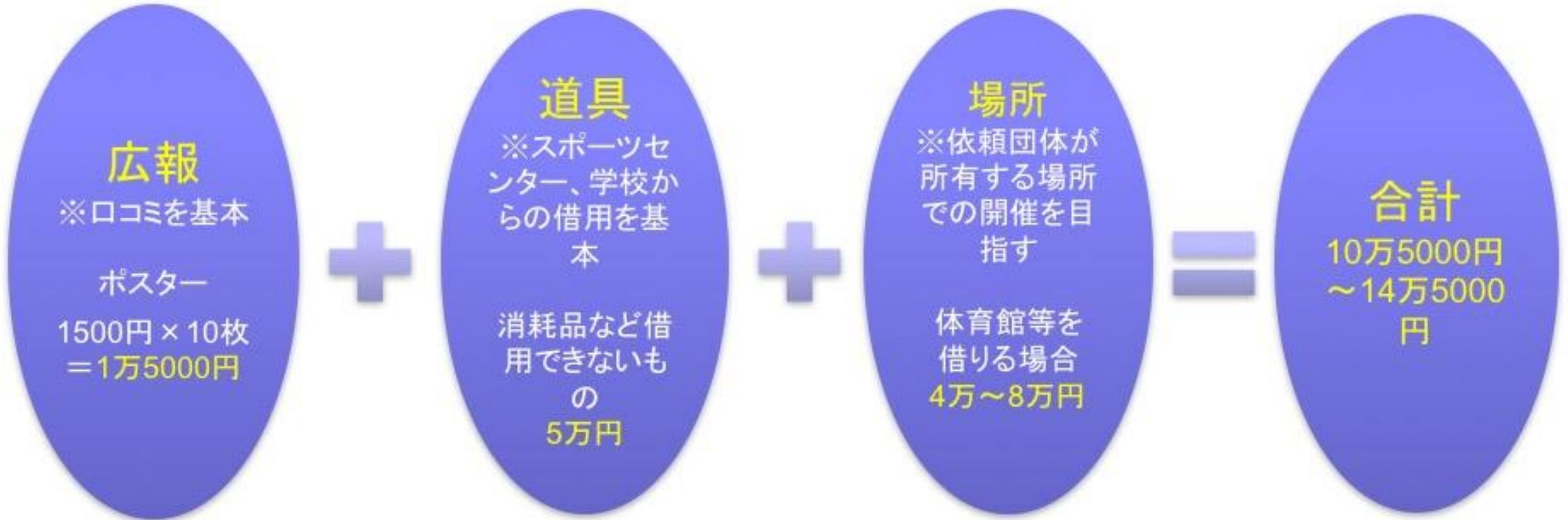
場所	広い	狭い
種目	車椅子スラローム	ボッチャの体験
	ゴールボール	目隠しPK
	車椅子バスケット	車椅子試乗
	車椅子テニス	ドッジビーでのストラックアウト

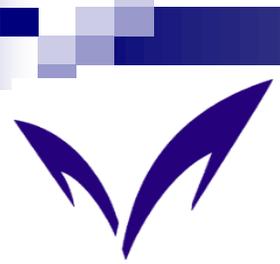
- 休日の開催では、200～500名の参加が期待できる。

(御茶ノ水駅周辺で行っているイベントから推測)



# 予算





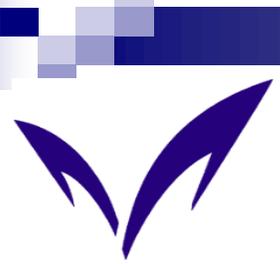
# イベントを開催することでのメリット

## ■ 参加者側

- 健常者と障害者が交流できるため、障害者への理解が進む
- イコールスポーツの概念を知り、全員が同じ目線でスポーツと向き合うことができる

## ■ 依頼団体のメリット

- 共生社会ホストタウンへの登録、登録後の活動を活性化させられる



# イベントを開催することでのメリット

- 全体を通してのメリット
  - 障害者のスポーツ実施率の押し上げ
  - 継続的なイベントの開催により東京五輪後も障害者に関心
  - 健常者と障害者の意識の壁のない社会の実現



**障害者スポーツへの意識改善で  
健常者と障害者のより良い交流が可能に！**



# 参考文献

文部科学省(2015)「障害者スポーツに関する基礎データ」

内閣官房(2017)「共生社会ホストタウン」

笹川スポーツ財団(2017)「地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)」

笹川スポーツ財団(2016)スポーツライフ・データ 2016

世田谷区(2018)「世田谷区は『共生ホストタウン』に登録されました」「『共有ホストタウン』の登録について」

東京都生活文化局(2018)「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」

守能信次(2007)『スポーツルーツの論理』大修館書店



ご清聴ありがとうございました